



 福岡銀行

情報と制御の独創技術を強みに、  
サステナビリティな社会に貢献。

株式会社 正興電機製作所 添田 英俊 氏

代表取締役社長

取引店／福岡銀行 本店営業部

#### ■会社概要

創業:1921年／設立:1930年／所在地:(本社)福岡市博多区／資本金:26億721万7,518円／従業員:1,013名(連結)、652名(単体)【2022年9月末現在】／事業部門:電力、環境エネルギー、情報、サービス、電子制御機器、オプトロニクスなど／事業所:(国内)本社、古賀事業所、東京支社、営業所…国内16か所、子会社4社(海外拠点)大連、北京、マレーシア、フィリピン

会社ホームページは  
こちらからどうぞ!







創立100周年記念で整備された花時計と花壇、  
大イチョウがシンボリックな本社前(左から添田社長、五島頭取)



## OT・IT技術をいち早く取り入れた 製品開発・サービスが強い

電力・環境エネルギー分野において、情報と制御の独創技術で新製品・新事業の創出に取り組み、環境にやさしく安全で快適な社会のインフラ構築に貢献する当社の創業は、1921年。創業者・土屋直幹つちやなおきが電機製品販売代理事業を営む『正興商会』を現在の博多駅前ので立ち上げました。その後、1930年には「株式会社正興商会」を設立し、1935年に現在の博多区東光に本社を移転。そして1960年に現在の社名である「株式会社正興電機製作所」となりました。「最良の製品・サービスを以て社会に貢献す」を社是に、堅実な経営と人材育成を基礎として、時代を拓く技術の開発に取り組んでいます。

当社の事業は、電機製品販売代理から始まり、1928年からは電機製品のプロダクト（製品製造）を開始、配電盤・開閉器製作等を手掛けてきました。OT（オペレーショナル・テクノロジー）制御・運用技術の導入はかなり早く、1973年に九州電力嘉穂制御所に変電所

集中システムの納入が最初の受注となりました。IT（インフォメーション・テクノロジー）情報技術）は、1985年に株式会社日立製作所戸塚工場に研修社員21名を派遣し、ワークステーション基本ソフトウェア開発の受託を開始したのが始まりです。IoT（Internet of Things）モノのインターネット）は、2007年に九州電力株式会社の変電所の操作支援システムからスタートし、約600カ所に導入されています。AI（アーツィフィカル・インテリジェンス）人工知能）の分野では、2020年から世界最速・最小最軽量のスマートカメラシステムの開発と製品化を手掛ける、福岡市に本社を置くベンチャー企業、HMS株式会社に投資なども行っています。

現在、主力である「電力システム」の分野では電力の安定供給を支える系統監視制御システム、発電所や変電所向けの装置、遠隔設備監視・操作支援システムの開発・製品化、「環境・再生可能エネルギー」の分野では浄水場の水処理監視制御設備、高速道路内の照明、換気設備における受変電設備など公共性の高い設備ソリューションを提供しています。



5



3



1



6



4



2



添田社長

「情報システム」分野では、自社データセンタを核としたプロバイダサービスを展開。港湾関連事業者向け業務サポートサービス、健康管理やeコマースソリューションで確かな実績を挙げています。

創業100年を迎え、さらなる成長を目指す

おかげさまで一昨年の2021年に、当社は創業100周年を迎え、新たなスタートとして2022年度から実施している中期経営計画「SEIKO IC2026」を作成しま

した。この計画では、売上高や営業利益など、かなり高い目標を設定しているのですが、目標を高く持つことで社員に積極性が生まれ、さまざまな提案が生まれることを期待しています。

具体的な取り組みのための方針として、当社が持つデジタル技術を活用した社会課題解決「デジタルファースト」、カーボンニュートラルへの取り組みを通じた「脱炭素社会の実現」、そしてグループの総合力を発揮する「One正興」の3つを掲げています。この3つを基本方針としてよりサステナブルな社会の実現に貢献する「サステナビリティ経営」の実現を目指してまいります。そして、O・T・I・T・プロダクト・AI技術を強みにワンストップのトータルソリューションを提供するとともに、組織内外との協働により、新たな技術事業の創出を加速していくつもりです。

その一つとして、九州電力の杵岐変電所に、株式会社NTTドコモ、西日本技術開発株式会社とともに、「ローカル5Gを活用した巡視点検ロボット実証実験」に着手しています。ロボット事業では、他にも警備ロボットや配膳



11 9



7



8



10



8

- 1.福岡市博多区の本社を訪問
- 2.本社1階ロボットセンターを見学
- 3.古賀工場
- 4.電力会社向け監視制御システム
- 5.公共事業向け上下水道監視制御システム
- 6.産業会社向け蓄電システム
- 7.健康経営支援システム
- 8.中堅社員による若手社員教育
- 9.10.設計棟
- 11.企業メッセージ





左端はネコ型配膳ロボットBellaBotと巡視点検ロボット SP02、前列左3人目から添田社長、五島頭取、藤善本店営業部長（福岡銀行）、谷川参与、河野部長

ロボットなども開発し、ロボットを活用した省人化、自動化に挑んでいます。

また、オプトロニクス（液晶）の分野では、電源のオンとオフで、透明と白濁を瞬時に切り替える調光フィルム『SHILF（シルフ）』の開発・製品化にも成功し、オフィスやホテルだけでなく、救急車などの車両市場への展開も見据えています。さらには、カーボンニュートラルを実現する蓄電システム・小水力発電システム、DX（デジタルトランスフォーメーション）事業なども展開。今後は、この強みを最大限に活かして、海外でのインフラ事業の拡大も視野に入れています。

### 女性、外国人の採用増 エルダー制度で人材教育が充実

これらの事業を推進していくに当たり、大きな課題となるのが人材です。4年ほど前から採用や教育の制度を大きく見直し、グループ横断プロジェクトの一つとして「人材戦略プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトは、幅広い創造性と活力ある人材の登用と、

グローバルデジタル人材の育成を行い、「One 正興」の旗の下、グループとしての総合力を発揮できる強い組織づくりを目指すためのものです。

人材採用においては、これまで積極的ではなかった国立大学の学生の採用を重視し、また女性社員比率を30%、外国人社員の比率10%を目標に、特に情報（IT）関連人材の大幅な増員を図りました。その結果、非常に優秀な人材が採用できており、文系出身者であつても情報分野で活躍することができています。

さらに人材育成においては、新入社員に対し、20代後半から30代の先輩社員が指導に当たる「エルダー制度」を採用しています。これによりきめ細かなフォローができ、良い相乗効果が生まれています。また、指導に当たる先輩社員は、当社における次世代リーダーの候補でもあります。新入社員の教育を通して、彼らにはリーダーとしての資質を養ってもらいたいと思っています。

### 健康経営推進企業「ホワイト500」に選出 3年間の新卒離職がゼロに

また、当社では2016年に「健康経営宣言」を行い、「健康経営プロジェクト」を立ち上げ、健康経営に関するイベントや社員の健康保持・増進の支援なども行っています。その取り組みの一つとして、大学や病院との共同研究により健康関連データの収集・見える化、生活習慣の改善をサポートする健康管理クラウドサービス「Health Leader」を開発・導入し、社員の健康管理にも役立てています。その結果、2022年には経済産業省が認定する健康経営推進企業「ホワイト500」に選定されました。また、これらの取り組みが功を奏し、この3年間の新卒採用者（60名）の離職者数がゼロという快挙をえました。

中期経営計画「SEIKO IC2026」を成功させるためには、人材育成は最も重要です。社会環境が大きく変化しようとしている今日、社員一人ひとりが高い使命感を持ち、自らを最大限に発揮できる環境づくりを、これからも大切にしていきます。

## ■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 五島 久

当社は、事業の中心である発電所・変電所の配電制御システムの分野で、長年電力の安定供給を支えてこられました。水道や高速道路などの公共分野、産業分野といった環境エネルギー部門でも、高い安全性と信頼性を背景に実績を積み重ねておられます。

また、「人材戦略プロジェクト」や「健康経営プロジェクト」など、社員の育成や働く環境の改善にも積極的に取り組まれ、新卒離職者ゼロという快挙を成し遂げられました。こうした人材戦略が、国内外の幅広いネットワークと確かな技術を有する当社を更なる高みへ導くものと考えます。





 熊本銀行

希少性と有用性の高い化石サンゴ。  
エコロジカルな天然素材で  
多分野のニーズに応える。

コーラルインターナショナル  
株式会社

代表取締役会長

やま かわ

ちよう

げん

山川 朝源 氏

代表取締役社長

おお しろ

あや

こ

大城 綾子 氏

取引店／熊本銀行 健軍支店

#### ■会社概要

創業:1973年／設立:1977年／所在地:熊本県上益城郡甲佐町(九州支社)、沖縄県八重山郡与那国町(本社)／資本金:4,500万円／従業員:29名／事業内容:総合ミネラル化石サンゴ関連商品(食品・ろ過材・飼料・肥料・壁材)の製造および採掘事業／事業拠点:本社、本店(沖縄県石垣市)、那覇支社、九州支社、東京営業所

会社ホームページは  
こちらからどうぞ!







工場前(左から大城社長、山川会長、野村頭取)



## 海運および陸運事業を経て 鉱業権を取得

日本最西端の島・与那国島の化石サンゴを使用した商材を取り扱う当社の創業は1973年。良質なミネラル70余種類を含む化石サンゴを原料にした健康食品、水質改善用ろ過材、家畜飼料、肥料を国内外に販売しています。

創業者で現会長の私は、高校を卒業後、沖縄県公務員資格を取得して多良間島村役場で勤めていました。その後石垣島に移住、地元海運会社に10年勤め、仕事で得た経験と人脈をもとに独立し、一般貨物運送会社を設立しました。

その頃の運送会社ではコンテナも使われず、公共以外の荷物には保険がかけられないのが一般的だったため、天災による水濡れ、破損が発生するとすべての責任を負う事態となっていました。

そこで私は、生鮮品のように腐ってしまうことがない商品を取り扱う事業への転換を考え、友人に運送会社を譲り、建設資材となる石灰岩の鉱山採掘事業への参入を決めました。資格を取得して鉱業権を得るための申請

をおこない、1977年に有限会社山川商會を新たに設立。さらに、事業展開の関係で乗り込んだ与那国島が、事業経営の大きな転機となりました。

## 稲の生育ぶりが教えてくれた 与那国島の化石サンゴの可能性

与那国島では、まず鉱山を確保して鉱業権を所有するために、地元の有志への交渉を始めました。「単なる金儲けで与那国島へ入ったわけではなく、島のためにすることをしたい」という熱意をもって率直な気持ちを伝え続けた結果、ようやく与那国島の第一歩を踏み出すことができました。

ところが、いざ採掘を始めると、石垣島の石灰岩にくらべて比重が小さく、圧縮強度が弱いことがわかったのです。見た目も石灰岩というより、サンゴの化石そのままの状態でした。これでは建設資材としては使えない、まったく予想外の展開でした。

そんな中、雨の中を歩いていた時、ある光景が目に見え込んできました。降った雨が道路にしみこみ、基礎材に使用したサンゴが溶け、





山川会長

田んぼに流れていました。しかもその付近の稲の生育がいい、サンゴの中の何かが、稲の発育に影響を与えているのではないか。建設資材として使用できなくとも、与那国島のサンゴ特有の活用法があるはず。そこから、琉球大学、北里大学、大阪大学、京都大学、酪農学園大学、日本分析センター等に協力してもらい、サンゴの研究に長年を費やしてきました。

**化石サンゴの成分研究で  
良質なミネラルが  
含まれていることが判明**

検査機関に分析を依頼すると、カルシウム

を始め、マグネシウム、ケイ素、鉄、リン、ナトリウム、カリウム、マンガン、亜鉛、銅等70余種類ものミネラルを含んでいることがわかりました。1989年に与那国島の化石サンゴに出会い、商品開発を始めてから12年の歳月が経過した時のことです。

様々な検査の結果、植物育成に必要なミネラルを豊富に含むと同時に多孔質による保水力、保肥力、通気性で循環型の有機的な土壌に転換する性質があることが研究で判明しました。

さらに、重金属イオン等有害物質吸着や土壌pHを矯正する役割も果たすことがわかり、特有の性質を活かして水質改善ろ過材、家畜飼料、肥料やハウスタスト・シックハウス症候群対策用の壁材としても商品化されています。化学的に手を加えない天然成分100%という特色から、健康食品、化粧品にも用いられています。

またこの頃、NHKの番組でオーストラリア沿岸の世界最大のサンゴ礁であるグレートバリアリーフの特集が取り上げられていました。サンゴ礁を中心に多くの生命が誕生、命の営みのリレーが育まれており、生態系に深く



1.対談風景／2.3.無菌作業室を見学／4.不純物を取り除いた化石サンゴの充填作業／5.海外へ輸出する商品を保管する倉庫／6.7.倉庫内には大量の化石サンゴが保管されている／8.与那国島産の化石サンゴ／9.化石サンゴを使用した商品はホームページで購入可能／10.「FSSC22000」、「ISO22000」の登録証／11.企業メッセージ







前列左3人目から大城社長、山川会長、野村頭取、高野支店長、坂口副支店長(熊本銀行)

かかわるサンゴを見て良質なミネラルが含まれているという自信を深めました。

### アメリカの研究結果から

### 海外への需要が拡大

1999年8月にアメリカのワールドライフリサーチ研究所(World Life Research Institute)の所長であったブルース・W・ハルステッド医学博士の著書で与那国島産の化石サンゴに含まれる成分が取り上げられたことで、海外からの需要が高まりました。

海外との取引が活発化した2006年に「コーラルインターナショナル株式会社」と社名を変更し、グローバルに向けた事業の展開を進めています。

また、酪農学園大学の小岩政照教授(こいわまさてる)の協力で、2009年4月にはマイコトキシン、カビ毒吸着による特許を取得。2010年10月には乳熱予防の特許を取得しました。

豊富なミネラルを含む与那国島特有の化石サンゴを差別化するために名称を「与那国島原産化石サンゴ」に変更しています。これは与那国島の資源の価値を高め、与那国島への



大城社長

恩返しに繋げたいという想いからです。

与那国島原産化石サンゴのブランディングに取り組んできた結果、現在はモンゴル、ロシア、リトアニアに自社商品を輸出、スロベニア、インド、バングラデシュ、中国、ベトナム他数カ国にサプリメントパウダーの原料等を輸出しており、世界各国のニーズに応えながら与那国島原産化石サンゴを提供しています。

### さらなる販路拡大と 地域貢献に向けて 工場を熊本の地へ

2017年には販路拡大のため、現社長の

私・大城の出身地である熊本県上益城郡甲佐町に工場を新設しました。熊本県庁で熊本県企業立地課と甲佐町役場、コーラルインターナショナルの三者にて、熊本工場の新設に伴う調印式を執りおこなっています。

食品製造もおこなう熊本工場では、無菌作業室も完備しており、食品安全システム認証の「FSSC22000」、原料の受け入れから最終製品の出荷に至るまでの全工程において適正な製造管理と品質管理が求められる「原材料GMP」、衛生管理の国際的な手法として義務化されている「HACCP」を取得して、お客様に安全な商品を提供できるように、品質管理に尽力しています。

「天の利、地の利、人の利に。熟成を心がけ、頑張っていれば、必ず、結果が出てくる。」との言葉を信じて、与那国島原産化石サンゴの可能性を追い続けた結果、世界に通用する商材を生み出すことができました。

今後は、アジアの発展途上地域における水質改善など、当社へ寄せられる期待にお応えしながら、広く社会に貢献できる事業活動を目指してまいります。

## ■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 野村 俊巳

海運および陸運業の経験をもとに鉱山開発に進出された結果、多分野で有用とされる成分をもつ与那国島の化石サンゴの研究に長年にわたって取り組まれ、世に必要とされる商品を開発してこられました。

また、原材料を産出する与那国島、商品の製造拠点である熊本県上益城郡甲佐地区の地域活性化にも継続的に寄与されています。SDGsの観点からも、添加物や化合物のない天然素材のプロダクトを市場に供給する独自の事業に、引き続き注力されることを心から願っております。







十八親和銀行

技術力と発想力と設備力で、  
夢をかたちにし、真心をかたちにし。

出口工業株式会社

代表取締役  
出口雄一郎氏

取引店／十八親和銀行長与支店

#### ■会社概要

創業:2001年／設立:2007年／所在地:長崎県西彼杵郡時津町／資本金:800万円／従業員:40名(2022年10月末現在、関連会社含む)／事業内容:精密機械加工、特殊製缶、各種溶接、非鉄金属加工、配管製作、板金加工、塗装、プラント工事一式、電気工事、各種装置、制御盤製作、設計開発、産業廃棄物収集運搬、古物商／事業所:本社、左底工場、日並工場

会社ホームページは  
こちらからどうぞ!





本社前(左から出口社長、山川頭取)



## 溶接技術の提供からスタート 精密機械加工へと業容を拡大

さまざまな素材の各種配管・製缶・精密機械加工を得意とし、設計から製造・加工・据付までの一貫体制を敷く当社の創業は2001年。大型フェリーのエンジニアであった父親の影響を受けたのか、子どもの頃から機械いじりが好きで、自身の自転車などをばらして遊ぶような幼少時代を過ごし、地元の高校を卒業した後は、親の敷いたレールを進むことを拒み、知り合いの伝手を頼って関東へ。溶接工の見習いとして技術を習得する毎日で生計を立てていましたが、25歳の時に地元の長崎に戻り、30歳で溶接加工の仕事を個人事業として開始しました。

ここ長崎は造船や電機機械器具製造関係の仕事が多い土地柄ということもあり、その分野を中心に、発電所やプラントなどで溶接技術を提供していましたが、人の縁を得て少しずつ仕事が増えるようになっていき、信頼を重ねた結果、溶接技術に加えて製缶や配管業務なども請け負うようになりました。

2007年に個人経営から法人化を果たし、出口工業株式会社を設立。当時特定労働者派遣の認可を取得して派遣業も開始しました。さらにその後も工場を拡大しつつ、設計・施工業務や塗装業務まで幅を広げています。

そうして2010年には、日並工場を開設して、さらなる製造能力の増強と営業・生産管理体制の強化を図り、現在に至っています。

## 設計から施工まで 各工程を網羅する強み

当社が事業を拡大してきた中で大きな転換点といえるのは、3D・CADを導入して精密機械の設計から加工まで事業の幅を広げられたことが挙げられます。当社は精密機械の設計から製造、施工・据付まで社内一元管理しながら業務を進められるのが強みですが、それはつまり、設計、製缶・板金、配管、精密機械加工、組立、塗装の各技術をただ有しているだけでなく、それぞれの業務で高い専門性を発揮しつつ、個々の分野の技術を有機的に連動させられる利点があるのです。





出口社長

製造業の現場の視点で見ると、ある事業だけに特化した企業が営業をした場合、受注できるかどうかはどうしても価格競争になってしまいます。たとえ受注できたとしても、受注金額の叩き合いで利益はほとんど出ないことでしょう。そこで当社は、他社と比較できない仕事を指すことにしたのです。もちろん、付加価値のある仕事を提供するには、その分、高度な技術力と最新鋭の設備の両方を揃える必要がありますが、長崎県のものづくり補助金や十八親和銀行の協力などを得ながら、生産体制を強化して、日々お客様からのニーズにお応えしています。

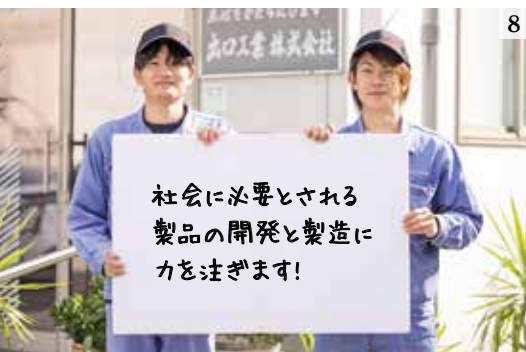
## ものづくりを通じて 課題解決に貢献する

当社が取り扱う製品は、タンク、配管、ダクト、制御盤、機械部品といった、個人の日常生活では目にすることの少ない製品を中心に手がけていますが、そうした製品も、車両用空調装置、ビル用空調装置、鉄道のホームドア装置など、身近な最終製品の一部分になっています。

私が今後当社をどのような会社にしたいかというところ、ひと言でいえば「世の中になくはない会社」です。多くの人の暮らしに必要とされ、社会に求められる会社というのは、世の中の役に立つ、なくてはならない存在です。当社はこれまで役に立つ会社になるために、単なる製造業ではなく、設計段階からものづくりに関わって、提案型の営業ができる会社として活動を展開してきました。お客様の困り事など、ニーズを捉えて最適なものづくりで課題解決に貢献する、これがねらいです。

そのためにも当社では2011年から自社製品の開発と製造に力を注いできました。大学の研究施設などで利用される実験動物用

8 7



- 1.対談風景
- 2.左底工場(精密機械加工、プラント等)を見学
- 3.最新鋭の3次元測定機
- 4.3D-CADを見学
- 5.日並工場(製缶、配管、溶接組立、制御盤等)を見学
- 6.手作業が必要なレーザー溶接では強力なレーザー光線が放出されるため黄色フィルムで窓を覆ったうえで専用ゴーグルを着けて溶接する
- 7.日並工場の皆さんと一緒に
- 8.企業メッセージ







左底工場にて。最前列左2人目から出口清子<sup>せいこ</sup>常務、出口雄一郎社長、山川頭取、今泉支店長(十八親和銀行)

飼育ケージの洗浄後に用いるブローアー乾燥機がその一例です。多くの飼育ケージがコンベアで洗浄される際に同時にブローアーによる風圧で効率よく水分を飛ばし、短時間で乾燥させられるのが特長で、それまでそうした設備は存在していませんでした。地元の大学などからそうしたお話を聞き、当社で開発・製造したところ、すぐに複数の研究機関で導入していただきました。

### 信頼される会社にする第一歩は 信頼される人づくり

理想的な会社経営を実現していくために重要なことは人材育成だと考えています。どのような業種の企業においても同じことが言えると思いますが、とりわけ製造業の場合、仕事や職場環境に対して魅力を感じられずに若い世代が離れていく状況が世間一般で続いていると聞きます。私が考える人材育成に必要なものとは、コミュニケーションの徹底だと思っています。

新入社員が日々業務日誌を書き、その内容に対して上長はコメントやアドバイスを欠か

さず書き込む。目標設定と計画を本人と一緒に  
 になって行う。朝礼時の1分間スピーチなどで  
 自らの意見や気持ちを表す習慣をつけさせ  
 る。懇親会などを通じて、年齢の近い先輩に気  
 軽に相談しやすい雰囲気をつくる。一つひとつ  
 は、ごく当たり前ともいえるコミュニケーション  
 の方法ですが、相手とのキャッチボールを可能  
 な限り継続していく姿勢が何より重要ではな  
 いでしょうか。また働きやすい職場環境づく  
 りの実践企業として、長崎県より「Nぴか」の認  
 証も頂いています。更には長崎県SDGs登録  
 制度に申請しており、企業として社会的責  
 任も果たしています。

当社の社訓にも謳っていますが、信頼され  
 る人づくりこそ、信頼されるものづくり、信  
 頼される会社づくりにつながるものと考えて  
 います。

## 躍進の20年を経て さらなる挑戦を誓う

2021年4月、当社は創立20周年を迎  
 え、創業時からここまで事業領域の裾野を

拡げてこられた歓びを社員で分かちいまし  
 た。精密機械技術の精度向上によって当社の  
 事業も、航空機や半導体の分野への参入も果  
 たしました。また当初は鉄を相手に人の手に  
 よって溶接したり切断したりしていたのが、  
 3D設計による加工の自動化が進み、さら  
 はアルミやチタンといった非鉄金属の加工でも  
 高度な技術を実現できています。

そして今、将来に向けて注力しているのが、  
 社内のDX化です。業務支援ソフトや基幹シ  
 ステムを導入しての業務の「見える化」や、書  
 類や図面などのデジタルデータ化で、社内全  
 体の業務改善を図っています。コロナ禍でジ  
 ネス界への普及が進んだりリモート会議システ  
 ムも、県外との取引も増えた現状では大いに役  
 に立っています。

付加価値のある成果でオンリーワンの存在  
 となれるよう、これからも他社の追随を許さ  
 ない仕事に、果敢にチャレンジし続けてまい  
 ります。

## ■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役頭取 山川 信彦



ここ長崎の地で溶接技術を提供する個人事業から出発されたのち、委託  
 企業からの信頼と実績を積み重ね、この20年で事業の内容はより小型化・精密  
 化されましたが、業績を大きく伸ばされました。金属製品や精密機械の設計から  
 製造、施工まで社内一貫体制を整えられ、その強みを活かして、地元企業はもと  
 より幅広い分野の製造業に対して、精度の高い製品を供給されています。

創業20年を迎え、最新鋭の設備を導入して生産体制のさらなる拡充および  
 作業環境改善にも取り組まれています。これからもお客様からの信頼に応える  
 パートナーとして、さらに発展されることを祈念いたします。